

厳しい生活、人員不足浮き彫り

794件AIが分析 安全性低下・パワハラ・会社不信

2026 春闘航空連統一アンケート結果		
単位：％		
回答：1,599 人		カッコ内前年
生活実態	かなり苦しい	20.8 (23.3)
	やや苦しい	33.3 (32.8)
	まあまあだ	40.3 (37.7)
	ややゆとりがある	4.3 (4.3)
	ゆとりがある	1.3 (1.8)
人員	不足している	83.0 (86.1)
	足りている	17.0 (13.9)
関心事 (3つ選択)	健康不安	25.3 (23.8)
	雇用不安	9.1 (7.8)
	航空安全への不安	11.6 (13.5)
	技術力・スキル低下	14.5 (16.0)
	旅客サービス低下	7.9 (7.1)
	労働条件切下げ不安	17.2 (18.4)
	組合力低下	14.5 (13.4)
	コロナや感染対策	3.8 (3.4)
安全	安全は向上した	11.1 (10.2)
	安全は低下した	27.6 (31.7)
	どちらとも言えない	61.3 (58.1)
	ヒヤリハット経験	23.2 (40.3)
	ヒヤリハットなし	76.8 (59.7)
ハラ スメ ント	受けたことがある	13.2 (10.5)
	見聞きしたことがある	27.9 (24.1)
	ない	58.9 (65.4)
※項目ごとの回答率。		

航空連の「春闘統一アンケート」によると、生活実態はわずかに改善傾向が見られたものの、依然として半数以上が厳しい状況にあります。人員不足は8割を超え、関心事項では健康不安が最も高く、ハラスメントの体験・目撃が増加している実態が浮き彫りになりました（表参照）。

生活実態では、「かなり苦しい」と「やや苦しい」を合わせ54.1％（前回56.1％）となりました。

人員については、83％が不足していると感じており、「足りている」は17％にとどまりました。依然として8割超が人員不足を実感しています。

関心事では、「健康不安」25.3、「労働条件切り下げ」17.2％、「組合力低下」14.5％、「技術力・スキル低下」14.5％が上位3項目となりました。

安全については、「向上した」11.1％に対し、「低下した」は27.6％、「どちらとも言えない」61.3％でした。また、「ヒヤリハット経験」は23.2％、「ヒヤリハットなし」は76.8％でした。

ハラスメントについては、「受けたことがある」13.2％、「見聞きしたことがある」27.9％で、合わせると4割を超えました。

意見欄には、ヒヤリハット・ハラスメント・自由意見を合わせて延べ794件の声が寄せられました。膨大な意見についてAIを活用し分析したところ、「ヒヤリハット」では、①疲労の常態化、②人員不足の固定化、③タイムプレッシャーの増大、④経験構成バランスの崩れ、⑤経済効率優先の経営圧力、⑥外部圧力の増大、といった特徴が見られました。「ハラスメント」では、圧倒的多数はパワハラでした。大声での叱責、公衆の面前での辱め、威圧的なメール、見せしめ型マネジメントの常態化など、「心理的安全性の崩壊」を示す内容となっています。また、自由意見からは「会社が社員を大切にしていると感じられない」という心理的メッセージが全体に流れていることが分析されました。